

埼玉県における協同労働の実践報告① 労働者協同組合やぎのお茶会

やぎのお茶会の荒井と申します。本日は、私と石崎さん、長山さんの3人で報告をさせていただきます。

設立までの経過とこれからについて、始めさせていただきます。

まず団体概要になります。設立は今年の6月29日ということで、設立してまだ間もない、本当にできたてほやほやの団体になります。

代表者が安藤直子さん。事業所の所在地を埼玉県所沢市に置いていまして、メンバーは理事長を含めて10人、あと監事となっています。

右下の写真が、オンラインで行った設立総会のときの様子になります。

設立目的なんですけれども、どんな協同組合かというと、労働者協同組合という仕組みを選択して設立を行いました。

目指しているものについては、「自然と人、人と人が平和で豊かな関係を取り結ぶこと」という、少し概念的な話になるんですけれども、もう少し具体的に話しますと、主な活動エリアを武蔵野台地という、都心部に一番近い生態系が豊かなエリアと言われているところに置いていまして、そこに根ざして、いろいろな人が集まり、出会い、語らい、交流し、心の重荷を下ろせる安心の場をつくることを目指しています。

その先に何をするかというところで目指しているものとしては、人と自然と地域社会の再生を図る活動ということにしています。

私たちの団体は設立して間もないということを先ほどお話しさせていただいたんですけれども、約2年半かけて議論と活動を重ねて設立に至りました。

さかのぼると、2024年1月8日に初めての学習会を行っています。何かしら取り組みをやりたいということで、メンバーの中から労働者協同組合という仕組みに関心があるという話が出て、まずこの仕組みについて学習会をするところから始まりました。

それから約1年程度は、どんな取り組みをしていきたいか、一人ひとりのメンバーの関心の出し合いなどをじっくり行っていました。

2025 年 2 月 1 日に、「そろそろもう少し具体的なイベントを実際にやってみたいよね」というところから、大きめの講演イベントを開催しました。

そこからまた、イベントの開催や、これから話す農園活動、学びの集まりの企画などを行ってきました。

また、大学と連携した市民講座を今年中に行っていきたいという話から、具体的な法人化を目指した取り組みが始まり、6 月 29 日に設立総会を迎えました。

いろいろな設立の仕方があると思いますし、これほど時間をかける団体は少ないんじゃないかなと思うんですけども、メンバーの中では「じっくり時間をかけてよかった」という言葉も結構聞かれています。

集まるたびにそれぞれの思いを共有して、何だか水をためているような、遠回りしたけれど一人ひとりの価値観が共有できた、とても大切な、これからの肥やしになるような時間になったね、と話しています。

これから、準備期間中に取り組んだことについて報告します。

石崎です。これから取り組んだことを紹介していこうと思います。

取り組んだことの一つ目として、講演イベントを行いました。

2025 年 2 月 1 日に、日本のアニメ文化の歴史に関する 1day カフェ & 講演会を、私たちの組合員もお世話になっています所沢市の和朋庵というところで開催いたしました。

焼き菓子や和紅茶を楽しむカフェの後に、講演会を実施いたしました。

日本のアニメ文化に関心のあるベラルーシ、ウクライナ、ロシアの若者とオンラインをつなぎ、国境を越えたアートや自然、平和について考える場、また交わる場となりました。

このイベントが組合設立前に初めて行ったイベントでした。

とりあえず何か企画してやってみようということで、手探りの中での開催でしたけれども、私たちの実績の一つとして、本当に自信と喜びを得られた、そんなイベントとなりました。

次に、取り組んだことの二つ目として、スペイン社会的連帯経済ツアー報告会を行いました。

ジャーナリストの工藤律子さんが主催する「スペイン社会的連帯経済スタディツアー」に、私たちの仲間の一人が参加いたしまして、その報告会を開催しました。

スペインでは、人々が共に働く取り組みや事業が数多くあること、その厚みと、また心も体も喜ぶ働き方を選択していくしなやかさに感動したという報告でした。

当日は、ツアーに参加した若者たちも、自分たちの発見を次々と語り、会場はとても熱気に包まれていたのを覚えています。

私も報告を聞き、本当に向こうには多くの労協のような働き場が当たり前にあることを知り、とても刺激を受ける内容でした。

報告会の最後には、みんなで手作りしたパエリアなどのスペイン料理を楽しみ、また語らう場となりました。

続いて、農的活動についてです。

2025年に所沢市内で農園を借りて、農的活動に取り組みました。

やぎのお茶会という名前からも伝わる場所があるかもしれませんが、メンバー全員が農的活動に関心を持っていたことからスタートした取り組みです。

気候的に厳しい時期もあったんですけども、約20種類の野菜を植え付けて収穫していく中で、自分たちで育てた野菜を分け合って食べるという、手触り感のある喜びを共有できたことが大きかったなと振り返っています。

また、メンバーのつながりで現役の大学生が手伝ってくれたり、周辺の農家の方たちとのつながりもできたりした活動になりました。

学びの事業の取り組みについても報告させていただきます。

2024年11月に、地域の歴史に精通している対馬さんをガイドに迎えて、狭山丘陵のエクスカージョンを実施しました。

地域の湿地やさまざまな遺跡を巡りながら、保全の難しさや、土地に刻まれている人々の暮らしの記憶に触れる学びの深い機会となりました。

こういった活動が、私たちのこれからの具体的な事業計画にもつながっていきます。

次に、交流事業「対話の場づくり」についてお伝えします。

ここでやっていたのは、私たちが「お仕事カフェ」と呼んでいる活動です。

それは既存の職業観にとらわれずに、「そもそも働くって何だろう」というところまで立ち返って、自分の仕事だったり生き方を見つめ直して、そこから対話を始めてみようという場づくりになります。

2025 年はまずやってみようということで、試験的に身近な参加者を中心に、少人数・無料で対話会を3回開催させていただきました。

会を重ねていく中で、単に「私の仕事はこうです」というような情報交換だけではなくて、個々人の人生観ですとか、内面や感情のようなところに触れる対話が生まれました。

私も参加していたんですけれども、身近な人であっても、自分の内面を開いていくというのは少し勇気がいることでして、これからやっていく中では、安心できる関係性を確保していくことが大事だなということが分かってきました。

次に、2026 年度の事業計画をお話しします。

ここに書いてある三つの事業を進めていく予定です。

一つ目として、まず体験事業、農的活動についてお伝えします。

これまで複数あった栽培場所を一か所に集約・拡張して、栽培品目や作付けなどを細かく計画していきます。

今までは野菜を育ててきたんですけれども、お花も試験的に栽培してみます。

また、今農園はこんな状況ですよというような情報共有の仕組みづくりや、作業するときに必要な水場、倉庫、休憩場所などの環境整備もやっていきます。

それから、労協でやっていくということで、活動コストの可視化と収益化をどうやって進めていくかということも検討していきます。

ただ、主な活動としては、水やりや収穫といった日々の農作業を引き続き行っていく予定です。

次に、学びの事業についてです。

学びの事業では、狭山丘陵について学ぶ講座を開催していく予定です。

狭山丘陵やその周辺地域では自然も豊かで、その自然と人との関係に向き合っている方々がたくさんいらっしゃると思っています。

また、「雑木林博物館構想」というものがありまして、その発表 40 周年ということもあり、私たちの方で連続講座「狭山丘陵学」を開催させていただこうと思っています。

その際には、その地域に関わってこられた方々や、早稲田大学、周辺の自治体・団体との連携も模索していきます。

また、それとは別に単発の講演会や読書会も実施していく予定です。

私自身も、参加する皆さんと一緒に狭山丘陵のことを学べたらうれしいなと思っている事業です。

最後に、交流事業「対話の場づくり」についてです。

この事業では、「こんな場をつくっていますよ」という発信と、カフェの定期開催、それから皆で話す会だけではなく「この方の語るお仕事を聞きたい」という人に皆で聞きに行く取材活動という三軸で進めていきます。

具体的には、note での記事発信や、カフェを定期開催するための場所選びなどを進めていきます。

取材については、私たちが話を聞きに行くだけではなく、人を招いて、みんなで話を聞く公開取材会のような形も予定しています。

このように、私たち労働者協同組合やぎのお茶会は、自然と人、人と人との平和で豊かな関係のために活動していきます。

こちらの QR コードは Instagram につながっています。まだ整備中ではありますが、これから情報発信をしていく予定です。

お問い合わせなどについては、Gmail の方をお願いいたします。

これで発表を終わります。ありがとうございました。